AMDA主催の国際会議

「アジア相互扶助災害医療ネットワーク会議」

災害時の連携強化と世界平和のために

〝救える命があればどこへでも〟と標榜し、国際医療ボランティアに取り組んでいる特定非営利活動法人「AMDA（アムダ）」。1984年の設立以来、「相互扶助」というキーワードを基に活動し、現在ではアジア、中南米、アフリカ、ヨーロッパ、30か国に支部があります。

そのAMDAの主催で、去る4月12日～18日に、「アジア相互扶助災害医療ネットワーク会議」が開催されました。同会議にはインドネシアや韓国、台湾などアジア13か国・地域を代表する医師やNGO団体等が参加。積極的な意見交換などを通じて、各国の文化背景を基に各団体の得意分野を共有しながら、今後の相互協力に向けた実施体制を作る、としています。

開会に際しての趣旨説明で、「根本哲学は『相互扶助』による信頼。本当に困った時に助け合っていく。『きょう、あなたが困っているから私が行きます』、『あした、私が困ったら来てください』。この繰り返しによって、『この人は信頼できる』という気持ちになっていきます。この信頼というものが世界平和に一番大切なものであり、一番確実な方法だと思っています。そういった意味で、災害時に助けに行ったり助けられたりすることは、信頼を作り上げていく一番わかりやすい方法です」と語った、AMDAグループ代表の菅波茂氏。

趣旨説明を行う菅波茂氏

このほか、世界平和のためには政府や大学、NGO・NPO、あるいは企業、宗教、そしてボランティアなど市民との連携・協力が重要であると語り、また、医療だけでなく、生活の向上や教育面にも言及。

「物の見方、考え方が違う人たちがどうやったら一緒に共存共栄していくことが出来るのか。すなわち『多様性の共存』、これがAMDAの究極の目的です。

『平和とは、戦争がない』というのはクラシカルな定義です。私たちAMDAの定義は、きょうの家族生活と、あすの家族の希望が実現できる状況。きょうの家族の生活とは、食べられて、健康であること。あすの家族の希望とは、子供たちに教育を受けさせること。この『ベーシック・ヒューマン・ニーズ』を実現できる状況が平和であると定義しています。その平和を妨げるものが紛争であり災害であり貧困です」としています。

ジョン・レノンの「イマジン」を披露するイサガニ・セラーノ氏（「フィリピン農村地域再建運動」代表）